

ドン ドン ドンキの快進撃

碓 知子

日本でお馴染みのディスカウントストア、ドン・キホーテ。東南アジアでの知名度も高く、訪日観光客にも人気です。そのドン・キホーテの東南アジア版、「ドンドンドンキ」がシンガポールで快進撃を続けています。

シンガポールにはドン・キホーテという店名のレストランがデンプシー・ロードにあるため、ドン ドン ドンキという店名にしたそうです。

昨年12月、オーチャードセントラルに1号店を開業をしたのに続き、今年6月にはタンジョンパガーの100AMというショッピングセンターに2号店をオープンしました。タンジョンパガーといえば、近年再開発が進み、日本食レストランも増えているエリアです。100AMにはダイソーもあり、パルコが運営する日本食レストランストリートもあり、日本づくしのショッピングセンターです。オーチャードセントラル店は24時間営業、100AMは朝9時から夜中0時までの営業で、飲み会で遅くなっても立ち寄れるので便利です。



(ドン ドン ドンキ店内)

<ドンドンドンキの戦略あれこれ>

1号店開業と同時に有名になったのが、ドンキの焼き芋。連日行列で、仕事帰りによってもいつも売り切れだったのですが、2号店ではこの人気焼き芋の他に、焼きトウモロコシや、手巻きずし、たこせん（たこ焼きせんべい）など歩きながら食べられる日本の食べ物をそろえた「ジャパンモバイルフーズ」のコーナーも開設しています。フォトスペースもあるので、そこで写真を撮って、facebook や instagram にアップしてもらい、情報拡散してもらおうという戦略でしょう。

当地のメディア報道（ChannelnewsAsia 2018年6月13日）によると、ドンキは、2020年までにシンガポールで10店舗展開を目指しているとのこと。日本食人気は相変わらず高く、郊外の住宅地での需要も十分考えられますので、達成できない目標ではないでしょう。



【日本産生鮮野菜コーナー／産地と価格】

しゅんぎく (福岡) 5.9	モロヘイヤ (群馬) 4.9
みずな (福岡) 5.9	くうしんさい(茨城) 3.9
ほうれんそう(熊本) 5.9	単位：シンガポールドル
	82.69円/1S\$ (9月25日)

個人的にはドン・キホーテは都心にある日用品や雑貨のディスカウントストアというイメージで、生鮮品のイメージはなかったのですが、1号店、2号店共に青果や食肉、魚などの生鮮食品、お惣菜から酒類を含む飲料、化粧品、雑貨、日用品など豊富な品揃えです。しかも、日本の食材が他の日系スーパーに比べて激安なのです。例えば先日購入した日本製のドレッシング。他店では1本7シンガポールドル前後するところ、ドンキでは5シンガポールドル以下。

ある報道記事によると、ドンキは他店舗の最高値に比べて平均40%も安く設定しているそうで、いつ行っても、日本人、ローカル問わずにぎわっています。今までは、日本の食材はお金さえ出せばなんでも手に入りますが、日本の価格と比べてかなり割高になるので、「一時帰国の際にまとめ買い」をしていたのですが、ドンキができたおかげで、重いスーツケースを持って帰る必要はなくなりそうです。